

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人 社団 大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑1号館		
所在地	阿蘇市一ノ宮町宮地5857-1		
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果市町村受理日	平成23年10月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成23年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす」私たちは、人々に明かりと輝きをもたらします」の理念のもと、入所者様が安心して過ごせるよう心がけています。その一例がケアプラン。ホーム職員はもとより、母体病院の理学療法士、作業療法士、管理栄養士等が集い多方面から入所者様を見てその方がより安心して過ごされるように支援を検討し支えている。医療面が充実しているのも大きな特徴。大阿蘇病院との連携が重視され、既往歴があっても安心して入所できる。広い敷地内をゆっくりとした雰囲気の中で個性的に重視を置いたケアを提供している。職員も有資格者である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設9年のホームは101歳を最高に90歳台が多い状態にありながらも、活性温熱療法による脳の活性化やゲーゴルフゲーム等による身体機能維持、公文学習では認知症進行防止とする等、楽しくメリハリのある日常を支援している。管理者を中心に高い専門性かつ確かな健康管理、母体病院との強固な連携は入居者・家族への信頼感となっており、最期までこのホームでの生活を継続したいとの要望に今まさに終末期ケアに取り組んでいる。職員一人ひとりが考えたケアに取り組み、発語困難者から笑顔や発語を引き出し、ターミナル期から回復された入居者等かかわりの深さ、質の高いケアであることが確認された。“一隅を照らす”という大きな理念が今後も地域高齢者支援となり、地域福祉への寄与が大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし毎週1回の朝礼では唱和している。日々の業務の中でご利用者様本意の目線でサービスを行うことを全員が意識している。	地域密着理念である「一隅を照らす」のもと、ホームとして具現化した基本方針やユニット毎に目標を掲げ、その日のユニットリーダーが目標の進捗状況を職員に報告している。管理者は理念を踏まえたケアを実践することを指導し、職員は“いつも笑顔で挨拶、思いやりの心を大切に、付加価値の高いサービスを目指す”とする基本方針の一つをまさに実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物の途中で地域住民の方とふれあい、挨拶を交わしたりすることでこちら側から積極的にふれあう機会を設けている。	母体病院内という立地や民家が少ないという環境にあるが、隣接の小規模多機能ホームや認知症デイサービス、母体病院も地域と捉え交流を図ったり、託児所の子どもたちの訪問等ふれあいの時間を楽しんでいる。法人全体の夏祭りも地域との交流の一環となり、散歩や買い物時の地域住民との歓談や運営推進会議委員からの情報によりどんどや・敬老祭へ招待されている。	立地条件を払拭すべく努力されている。職員以外の住民と接する機会は、入居者の心身の活性化にもつながるものと思われ、今後も地域資源を生かしながら継続されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1回/2ヶ月の運営推進会議に民生委員、地域の方に参加して頂き施設の現状を報告し認知症の方の理解を深めていただいている。地域に開かれたサービスをし、サービスの質の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6回/年開催している。活動、サービスの内容取り組みなど報告している。又、そこでの意見、提案、要望を受けサービスの向上に活かしている。	2ヶ月毎と定例化した運営推進会議は、活動報告や入居者動向の他、行事時の写真等事前に資料を作成し、活発な意見交換が行われている。代表からの質問事項であるポータブルトイレ使用について具体的に話し合ったり、地域委員の体験談をケアサービスに反映させている。また、議事録を配布することで内容の周知としている。	運営推進会議で様々な意見が具体的にサービス向上に反映させている。今後も災害対策や地域との協力体制等具体的な議題を提示したり、消防署や警察等に講師を依頼する等の工夫により、更にホーム運営に反映されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず参加して頂いている。担当者の方とは市役所へおもむいた際は運営上の問題点や利用の方の情報交換等を密に行い連携を築くようにしている。	市役所に出向き、入居者動向を報告し、問題点の相談等適切なアドバイスを得ている。また、市開催の権利擁護等様々な研修会へ参加したり、生活保護では担当部署と連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどういったものか？などを勉強会を行うことによって理解を深めている。身体拘束委員会をはじめとし職員全員が研修に参加し尊厳を重視したケアを日々心がけている	身体拘束廃止委員会での事例検討や外部研修への参加者による復講により情報を共有しており、拘束及び虐待の弊害を全員が正しく認識している。入居者への言葉がけには特にアンケートによる意識向上を図り、日々職員同士注意し、尊厳あるケア姿勢で支援している。両ユニットともに外出傾向を察知し、自由に庭の草取りや隣接のデイサービス等で気分転換を図る等開錠し自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修に参加し事業所内で拘束、虐待がないよう日々心がけている。又、介護者による虐待、拘束についても見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護を理解するため資料を随時見れる場所においている。院内研修、外部研修に参加して権利擁護制度や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様、ご利用者様に分かりやすいように時間をかけて説明し、疑問などないかお尋ねしている。契約書には説明した職員の氏名を記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2階の家族会を開催して意見、要望を出していただいている。又、それらをミーティングのなかでスタッフ全員で話し合い運営に生かせるようにしている。	入居者と職員とは何でも言い合えるという良好な関係にあり、午後の過ごし方や喫煙・飲酒と様々な思いを把握し、家族と相談しながら本人の思いに対応している。家族には訪問時に日々の状況を詳細に説明し、意見や要望を引き出し、家族との連絡方法を話し合い日課ノートを個別作成する等要望に応じている。意見箱を設置しているがほとんど利用は無く、家族会や運営推進会議も問題提起の場としてサービス向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティングで聞くようにしている。又、その中で話し合いを儲け共通理解を図りそれぞれが働き甲斐のある職場作りに努めている。	管理者は職員との対話を重視し、職員の悩みや不満等相談に応じ、希望休を取り入れたり、託児所の働きやすい職場環境を整備している。法人の地域密着型事業所一同に開催する月1階の会議、及びセクション毎の会議を開催し、改善すべき点や業務で迷っていることなどを話し合い、ケアサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績においては、2回／年の人事考課を実施し、個別で話し合いを設定してやりがいを持って仕事ができるように心がけている。資格取得に向けたアドバイスも行い各自が向上心を持って仕事ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量は2回／年の人事考課の職種別専門シートにて把握している。それぞれが多岐の研修を積極的に参加し就業しながら資格が取得が取れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連地域密着協会で、他施設の方たちと交流をし、お互いの情報の交換をしてサービスの向上に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が何を要望されているか、又安心してご入所していただけるようになじみの関係が構築できるように取り組んでいる。積極的な信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に事前に入所者様のことを思い思いや要望を受け止め支援できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様、関係機関から情報を頂き、施設代表、管理者、計画作成者でその方にあった支援を見極めサービスできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を確認し日々の生活の中で出来ることを(茶わん洗い・茶わん拭き・洗濯物たたみ)引き出し活力となるようにしている。していただいたことは感謝の意を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず情報の交換を密に行い外出行事、誕生会にはお出で頂き家族の方との絆が途絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時代の知人、婦人会の仲間の方が気軽に面会に来ていただけるようにそれぞれの関係が途絶えないようにしている。	家族はもちろんのこと知人や仲間の訪問、会話で得た情報で昔の家に連れて行ったり、不在者投票に出かける等社会性の継続支援、節分の豆まきやひな祭り、また月見には一緒に月見団子を作る等人・場所や慣習等の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの方が気軽に遊びに来て親睦が出来るように声がけしている。又、一人ひとりが孤立しないように会話の橋渡しをするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して他の施設に移られてからも面会に伺いその後の様子を伺っている。ご家族の方にお会いした時は相談やアドバイスも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重し、拒否がある時は、無理強いしないケアを心掛けている。又、ご本人の思い、訴えは必ず傾聴を探るようにしている。	入居者の中には自身の思いや希望を表出することが困難な状況にある方もおられ、入居者一人ひとりに寄り添い、押し付けにならない関わりを大切に、言語的コミュニケーションの難しい入居者にも話しかけることを忘れず、真意を模索しながら職員が情報を共有している。入浴拒否にもあきらめず繰り返し声かけしたり、101歳という超高齢の方にも会話の中から思いを引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、生活環境を把握し、生活の中での出来る事を楽しみながら行える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調不良の時は、休んでいただいたり、体操やレクリエーションの、拒否がある時には無理強いせず、一人ひとりにあったケアに努めている。百歳を超えられている方は体調に合わせて昼間1時間位のベット臥床も行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望を伺い、介護計画書を作成し、説明し同意を頂いている。会議の時に話し合い、現状に応じた対応を取り入れている	本人・家族の意向を踏まえ、日々の記録を充実させ、月1回ミーティングを行い、定期的な短期目標期間毎の経過観察の評価と心身状況の変化に随時見直し、現状に即したプランを作成している。楽しく、メリハリのある生活を基本に本人の視点に立った詳細な個別的なプランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、申し送り時や、会議の時に情報の共有をし実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にあったサービス、家族の希望を取り入れ柔軟に対応できる出来る様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を開き、区長さん、地域の民生委員の方に参加していただき協力を得ている。又地域の行事等にも積極的な参加に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に母体の病院で受診、検査を受け、利用者様の体調維持に努め、ご家族の希望があれば、かかりつけ医での受診も受けられるよう支援している	母体医療機関をかかりつけ医とする入居者やもともとのかかりつけ医の継続など希望により支援している。医療連携ノートを日々記録し早期発見と受診対応としている。他の医療機関とも連絡を取り合い、協力歯科への受診や訪問歯科の利用など個々の希望や状態により適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化にいち早く気づき、看護師に報告している。夜間の急変時の対応もマニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、日々の情報を病院関係者に伝え、又入院時の様子等も、面会を通して退院後のため病院関係者からの情報を得ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の説明は家族に行っており、その人らしい終末期になる様、その場合何度もミーティングを行っている	「重度化した場合・看取りに関する指針」を作成し、入居時に全員に説明し同意を得ている。入居者や家族は「出来る限りホームでの生活を継続させて欲しい」という希望があり、家族との繰り返しの話し合いと重度化・終末期ケア体制を確保(母体医療機関との強固な連携)し、管理者は職員のメンタルケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等で救急蘇生での対応は、全スタッフ出来る様研修を受けている。又その際の連携などのマニュアルも作成し、緊急時に備えている。ミーティングなどで話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練実施で災害時の対応がスムーズに出来る様に努めている。防災訓練では地域の方にも出来るだけ参加して頂けるようにな声がけをしている。	隣接する小規模多機能ホームと合同の避難訓練を年2回昼間想定で実施している。役割分担を明記した計画書が作成され、薬やカルテが入った非常持ち出し袋を用意している。	夜間想定訓練を行う意向であり、近隣住民にも訓練への参加を促されており、今後、避難時間の把握や避難後の見守り等協力体制の確立が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮し、言動に注意しながら業務を行っている。スタッフ同士で、日々のケアの中でも、尊重しての対応に心掛けている	人生の先輩として尊敬の気持ちで言葉づかいやケアに取り組んでいる。入居者・職員お互いが労いの気持ちを言葉に表す等信頼関係に基いた親しみの話しかけができる間柄である。個人情報保護に関する掲示を行い、職員の守秘義務について、入職時やミーティング時に確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体に、それぞれの能力に応じ、安心して話し合える環境になることを心掛けている 人権を無視した言葉かけやプライバシーを侵害する様な言動はスタッフ同士で注意しあっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を観察し、楽しみや、喜びを見つけられる様に支援している（自室でラジオを聴く、テレビを観るなど）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を伺い、その人らしいおしゃれが出来る様に、本人の意向を聞きながら身だしなみの介助を行っている。又月に1回の理美容の方の訪問（散髪、時には化粧等楽しんでいただいている）を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、収穫した物を食べて楽しみに繋がる様に支援している。食器洗いや食器拭き等も出来る範囲で一緒に行っている。行事等の食事は、利用者様の希望に添ったメニューを考えている	入居者は下ごしらえ（牛蒡そぎ）や茶碗洗いなどできる事を一緒に行い、職員も共に食卓を囲み、「みんなでの食事は楽しい」と会話が交わされ、得意な歌が披露される和やかな食事時間である。嚥下や咀嚼状態に合わせた食事形態、苦手な物には代替食を用意し、誕生会にはその方の好物を出している。農園での野菜作りは作る楽しみ、見る楽しむ、収穫や食卓に上る喜びとなり、晩酌や喫煙にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理下で、摂取すべきカロリーを提供している。一人ひとりの状態、状況に応じて食事の形態を考へ提供し、水分1500cc以上摂取出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、うがいをする様に声がけしている。夕食後は義歯洗浄が出来る様援助している。協力歯科医より義歯の調整等をしていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導や、排尿間隔を把握し、声掛けを行っている。又排泄のサインを出される方もいらっしゃるの、見逃さずその度誘導している	排泄記録より個々のパターンを把握し、時間的誘導やサインを見逃さないようにトイレへ早めに誘導している。個々に応じた下着の使い分けにより失敗のない排泄に努め、夜間帯に失禁対策を援助方針としてあげ、適時のトイレ誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に1回はさつまいものおやつ、又、毎日手作りのヨーグルトも食べていただいている。便の状態をみながら水分を多めにとってもらったり、緩下剤もその方に合わせて飲んで頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回のペースで入浴していただいている。ご本人の体調、気分に配慮し、一番に入浴したいという要望等も考慮しながら行っている。入浴できない方は、ドライシャンプーや足浴、清拭等の対応を心がけている	毎日入浴できるように準備を行い、希望や体調により午前・午後と、ゆっくりとした入浴の時間となるように心掛けている。拒否に対しては、清拭や気分が良い時間に足浴を行うなど、職員のアイデアを活かし清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせて休息していただいている。居室にて日向ぼっこがしたいという方には、椅子を居室に運びゆっくりと過ごしていただいている。寝具等本人様が使用されているものを持ち込んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルしてスタッフ全員がいつでも確認できるようにしている。症状変化時、薬の追加があれば、申し送りし、把握できる様にしている。副作用に注意しバイタル測定や体調の変化に気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や、昔されていた事など、本人様の役割をみつけ一緒にこなしている。(洗濯物たたみ、食器拭き等)月1回の生花教室や、行事(誕生会、日帰り旅行、季節行事等)を計画し実施している。晩酌をたしなまれる方は夕食後に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様に希望や必要に応じて家族・スタッフの付き添いにて通院等の外出の支援を行っている。コンビニなどにも同伴して買い物に言っている。	敷地内の散歩や畑の野菜の手入れなど、外に出かける機会を持っている。又、隣接の小規模多機能ホームのご主人を訪ねたり、ディサービスへ出かけ一日を過ごすなど、気分転換を図っている。ツツジなど季節の花見に出かけたり、行事担当者による家族へのアンケートや下見を行っていく家族との日帰り旅行は楽しみな外出の機会である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や状態によって、所持していただいている。買い物に行きたいときは同伴している。ご本人が管理できない方は家族様より預かり管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族の方に取り次ぎ、話してもらったり、携帯電話を持たれている方は自由に電話してもらっている。又阿蘇市内であればTV電話が活用できる状態である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る様心掛けたり、スタッフ手作りの季節の壁飾りを毎月作っている。玄関前・テラス等所々にテーブル・椅子を配置し、使用している。庭にはベンチを置いて夕涼みができるようにしている。	ユニット間にハード面での違いはあるものの、ホームからの自然の眺めは阿蘇の山々が郷愁を呼び起こす環境にある。玄関前には季節毎の草花が彩り、ベンチで外気浴をしたり、お茶を楽しんでいる。室内は明るく、写真や貼り絵・塗り絵、書初め等を掲示は家族や訪問者への情報発信の場となり、静かな環境の中で入居者と職員の和やかな一日を垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下にソファを置き、好きな時に座ってもらっている。居心地のよい関係が出来る様見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が以前使用されていた馴染みの家具・寝具等を持ち込んでもらい、安心して居心地よい暮していただける様配慮している。	使い慣れた品物は入居者にとって落ち着いた環境であることを契約時に説明しており、たんすや家族写真など様々な馴染みの品物を持ち込み、家族の思いにレイアウトしなおしたり、テレビやラジオなどこれまでの習慣の継続となっている居室、転倒予防にカーペットに布団での生活等身体機能や本人の居心地の良さに配慮した居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりを設置している。十分なスペースで車椅子などもゆっくり移動できる。トイレに看板を付けたたり、手すりを使用し、歩行・立位が出来る様工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人 社団 大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑2号館		
所在地	阿蘇市ノ宮町宮地5857-1		
自己評価作成日	平成23年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成23年8月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす」私たちは、人々に明かりと輝きをもたらします」の理念のもと、入所者様が安心して過ごせるよう心がけています。その一例がケアプラン。ホーム職員はもとより、母体病院の理学療法士、作業療法士、管理栄養士等が集い多方面から入所者様を見てその方がより安心して過ごされるように支援を検討し支えている。医療面が充実しているのも大きな特徴。大阿蘇病院との連携が重視され、既往歴があっても安心して入所できる。広い敷地内をゆっくりとした雰囲気の中で个性的に重視を置いたケアを提供している。職員も有資格者である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし毎週1回の朝礼では唱和している。日々の業務の中でご利用者様本意の目線でサービスを行うことを全員が意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物の途中で地域住民の方とふれあい、挨拶を交わしたりすることでこちら側から積極的にふれあう機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1回/2ヶ月の運営推進会議に民生委員、地域の方に参加して頂き施設の現状を報告し認知症の方の理解を深めていただいている。地域に開かれたサービスをし、サービスの質の向上に努めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6回/年開催している。活動、サービスの内容取り組みなど報告している。又、そこでの意見、提案、要望を受けサービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず参加して頂いている。担当者の方とは市役所へおもむいた際は運営上の問題点や利用の方の情報交換等を密に行い連携を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどういったものか？などを勉強会を行うことによって理解を深めている。身体拘束委員会をはじめとし職員全員が研修に参加し尊厳を重視したケアを日々心がけている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修に参加し事業所内で拘束、虐待がないよう日々心がけている。又、介護者による虐待、拘束についても見過ごされることがないように防止に努めている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護を理解するため資料を随時見れる場所においている。院内研修、外部研修に参加して権利擁護制度や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はご家族様、ご利用者様に分かりやすいように時間をかけて説明し、疑問などないかお尋ねしている。契約書には説明した職員の氏名を記入するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2階の家族会を開催して意見、要望を出していただいている。又、それらをミーティングのなかでスタッフ全員で話し合い運営に生かせるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティングで聞くようにしている。又、その中で話し合いを儲け共通理解を図りそれぞれが働き甲斐のある職場作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績においては、2回／年の人事考課を実施し、個別で話し合いを設定してやりがいをもち仕事ができるように心がけている。資格取得に向けたアドバイスも行い各自が向上心を持って仕事ができるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量は2回／年の人事考課の職種別専門シートにて把握している。それぞれが多方面の研修を積極的に参加し就業しながら資格が取得が取れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連地域密着絡協議会で、他施設の方たちと交流をし、お互いの情報の交換をしてサービスの向上に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が何を要望されているか、又安心してご入所していただけるようになじみの関係が構築できるように取り組んでいる。積極的な信頼関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に事前に入所者様のことを伺い思いや要望を受け止め支援できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様、関係機関から情報を頂き、施設代表、管理者、計画作成者でその方にあった支援を見極めサービスできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を確認し日々の生活の中で出来ることを(茶わん洗い・茶わん拭き・洗濯物たたみ)引き出し活力となるようにしている。していただいたことは感謝の意を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず情報の交換を密に行い外出行事、誕生会にはお出で頂き家族の方との絆が途絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時代の知人、婦人会の仲間の方が気軽に面会に来ていただけるようにそれぞれの関係が途絶えないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの方が気軽に遊びに来て親睦が出来るように声がけしている。又、一人ひとりが孤立しないように会話の橋渡しをするようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して他の施設に移られてからも面会に伺いその後の様子を伺っている。ご家族の方にお会いした時は相談やアドバイスも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重し、拒否がある時は、無理強いしないケアを心掛けている。又、ご本人の思い、訴えは必ず傾聴刷るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、生活環境を把握し、生活の中での出来る事を楽しみながら行える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調不良の時は、休んでいただいたり、体操やレクリエーションの、拒否がある時には無理強いせず、一人ひとりにあったケアに努めている。百歳を超えられている方は体調に合わせて昼間1時間位のベット臥床も行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望を伺い、介護計画書を作成し、説明し同意を頂いている。会議の時に話し合い、現状に応じた対応を取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、申し送り時や、会議の時に情報の共有をし実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にあったサービス、家族の希望を取り入れ柔軟に対応できる出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を開き、区長さん、地域の民生委員の方に参加していただき協力を得ている。又地域の行事等にも積極的な参加に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に母体の病院で受診、検査を受け、利用者様の体調維持に努め、ご家族の希望があれば、かかりつけ医での受診も受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化にいち早く気づき、看護師に報告している。夜間の急変時の対応もマニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、日々の情報を病院関係者に伝え、又入院時の様子等も、面会を通して退院後のため病院関係者からの情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の説明は家族に行っており、その人らしい終末期になる様、その場合何度もミーティングを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等で救急蘇生での対応は、全スタッフ出来る様研修を受けている。又その際の連携などのマニュアルも作成し、緊急時に備えている。ミーティングなどで話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練実施で災害時の対応がスムーズに出来る様に努めている。防災訓練では地域の方にも出来るだけ参加して頂けるような声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮し、言動に注意しながら業務を行っている。スタッフ同士で、日々のケアの中でも、尊重しての対応に心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体に、それぞれの能力に心し、安心して話し合える環境になることを心掛けている 人権を無視した言葉かけやプライバシーを侵害する様な言動はスタッフ同士で注意しあっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を観察し、楽しみや、喜びを見つけられる様に支援している (自室でラジオを聴く、テレビを観るなど)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を伺い、その人らしいおしゃれが出来る様に、本人の意向を聞きながら身だしなみの介助を行っている。又月に1回の理美容の方の訪問(散髪、時には化粧等楽しんでいただいている)を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、収穫した物を食べて楽しみに繋がる様に支援している。食器洗いや食器拭き等も出来る範囲で一緒に行っている。行事等の食事は、利用者様の希望に添ったメニューを考えている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理下で、摂取すべきカロリーを提供している。一人ひとりの状態、状況に応じて食事の形態を考へ提供し、水分1500cc以上摂取出来るように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、うがいをする様に声がけしている。夕食後は義歯洗浄が出来る様援助している。協力歯科医より義歯の調整等をしていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導や、排尿間隔を把握し、声掛けを行っている。又排泄のサインを出される方もいらっしゃるの、見逃さずその度誘導している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に1回はさつまいものおやつ、又、毎日手作りのヨーグルトも食べていただいている。便の状態をみながら水分を多めにとってもらったり、緩下剤もその方に合わせて飲んで頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調、気分配慮し、一番に入浴したいという要望等も考慮しながら行っている。入浴できない方は、ドライシャンプーや足欲、清拭等の対応を心がけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に合わせて休息していただいている。居室にて日向ぼっこがしたいという方には、椅子を居室に運びゆくりと過ごしていただいている。寝具等本人様で使用されているものを持ち込んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルしてスタッフ全員がいつでも確認できるようにしている。症状変化時、薬の追加があれば、申し送りし、把握できる様にしている。副作用に注意しバイタル測定や体調の変化に気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事や、言されていた事など、本人様の役割をみつけ一緒に行なっている。(洗濯物たたみ、食器拭き等)月1回の生花教室や、行事(誕生会、日帰り旅行、季節行事等)を計画し実施している。晩酌をたしなまれる方は夕食後に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様に希望や必要に応じて家族・スタッフの付き添いにて通院等の外出の支援を行っている。コンビになどにも同伴して買い物に言っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や状態によって、所持していただいている。買い物に行きたいときは同伴している。ご本人が管理できない方は家族様より預かり管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族の方に取り次ぎ、話してもらったり、携帯電話を持たれている方は自由に電話してもらっている。又阿蘇市内であればTV電話が活用できる状態である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る様心掛けたり、スタッフ手作りの季節の壁飾りを毎月作っている。玄関前・テラス等所々にテーブル・椅子を配置し、使用している。庭にはベンチを置いて夕涼みができるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下にソファを置き、好きな時に座ってもらっている。居心地のよい関係が出来る様見守っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が以前使用されていた馴染みの家具・寝具等を持ち込んでもらい、安心して居心地よい暮していただける様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりを設置している。十分なスペースで車椅子などもゆっくり移動できる。トイレに看板を付けたり、手すりを使用し、歩行・立位が出来る様工夫している		